

## 特集にあたって

大東文化大学看護学ジャーナル・編集委員長

北田 志郎

【特集Ⅰ】では第4回大東文化大学看護学会を取り上げた。昨年度の第3回総会はコロナ禍に翻弄され、講演・シンポジウムを無期延期とし、メールでの総会審議のみとせざるを得なかった。今年度も開催の是非が議論される状況ではあったが、例年より開催時期を遅く設定し、2021年10月16日にZoomを用いての開催にこぎつけた。

第3回に予定されていた「国際的視野で看護を考える」のテーマの元、共催の形で当学科国際交流委員会に基調講演とシンポジウムの企画を立てていただいた。基調講演をお引き受けいただいていた鈴木恵巨先生のご登壇が1年越しで実現し、国際交流委員の渡部富栄先生・王麗華先生に加え、4年生の中田ひよりさん、足立エリカさんにもシンポジストとして参加していただいた。海外を舞台とした看護実践と、異文化交流体験や多文化共生理念を看護に織り込む視点とが響きあい、遠隔開催ではありながら熱気溢れる催しとなった。

国際交流の機会自体が激減している折ではあるが、学生アンケートでは「視野が広がった」という感想が多く寄せられた。学生シンポジストに対し「先輩の立派な発表に大いに刺激を受けた」とのコメントも各学年から得られ、閉塞感漂う時勢であるからこそ開催する意義のある企画であったと考えられる。

【特集Ⅱ】は「大東看護の礎」と題し、今年度で特任教授をご勇退される樺澤一之先生、豊嶋三枝子先生のお二人にご寄稿いただいた。

樺澤先生による当学科設立に至る経緯の記録は、多くの方々のお力により当学科の現在があることを如実に伝えてくれる。また、豊嶋先生の歩みはそのまま看護基礎教育の歴史そのものであることが窺える。あとに続く私たちにとって、いずれも貴重な記録である。